

公害紛争処理関係及び 公害苦情相談員等ブロック会議の開催

公害等調整委員会事務局

公害等調整委員会では、平成26年10月下旬から11月中旬にかけて、全国を6ブロックに分けて、「第45回公害紛争処理関係ブロック会議」及び「第39回公害苦情相談員等ブロック会議」を開催しました。

「公害紛争処理関係ブロック会議」は、各都道府県の公害紛争処理担当職員を対象に、各都道府県における公害紛争の動向等について情報交換を行うもので、公害紛争処理事務の円滑な実施を目的としています。また「公害苦情相談員等ブロック会議」は、原則として人口10万人以上の市及び特別区の公害苦情相談担当者を対象に、公害苦情相談の動向等について情報交換を行うもので、公害苦情相談の適切な処理の促進を目的としています。

今回のブロック会議は、下記日程表のプログラムを各ブロックごとにアレンジして実施されました。「公害苦情相談員等ブロック会議」には、公害等調整委員会の公害苦情相談アドバイザーにも出席していただき、長年の経験を基に、講演や事例研究のアドバイスをしていただきまして、これら講演や事例研究等を通じて、活発な意見交換がなされました。

そこで、今回のブロック会議に参加された長野市の酒井さんと岡山市の笠原さんに感想を寄せていただきました。

日 程 表		
	1 日 目	2 日 目
10:00		公害苦情相談員等ブロック会議(2日目) 公害苦情相談事例研究
11:00		出席者からの個別苦情処理相談
11:30		
13:30	公害苦情相談員等ブロック会議(1日目) 自己紹介(一部のブロック会議にて実施)	公害紛争処理関係ブロック会議 自己紹介及び参加都道府県の状況報告
13:40	公害苦情相談アドバイザーによる講演	公害等調整委員会からの報告、意見交換等
14:00	休 憩	
14:20		公害審査会等における紛争処理事例の経過説明、 公害紛争処理・公害苦情処理に関する意見交換等
14:30	公害苦情処理に関する事例研究、意見交換等	
15:20		公害等調整委員会からの連絡事項等
16:30		
16:50	次回開催市の決定	次回開催都道府県の決定
17:00		

ブロック会議に参加して

長野県長野市環境部環境政策課主事

酒井 雅宏



平成 26 年 10 月 27 日、28 日に長野市において「第 39 回公害苦情相談員等（関東・甲信越・静岡）ブロック会議」が開催されました。ここ長野市は北アルプスに源を発する犀川の扇状地と千曲川の沖積地によって形成された肥沃な長野盆地に位置し、国宝善光寺の門前町として発展してまいりました。扇状地が多く、寒暖の差が大きいことから果樹の栽培に適しており、ちょっと古いデータで恐縮ですが、平成 18 年度の統計によると全国の市町村におけるりんご生産量は青森県の弘前市に次ぐ第 2 位となっております。現在は「秋映（あきばえ）」「シナノゴールド」「シナノスイート」といった長野県生まれの新品種が誕生し、秋から冬にかけて街道は路地販売で賑やかになります。

私が環境政策課に異動して今年で 3 年目になりますが、野焼きなど、原因がはっきりしているものもあれば、原因がはっきりしない悪臭などの感覚苦情相談、また、法令等による規制対象外の騒音苦情相談など様々な苦情相談が当課には寄せられます。今回、本市でも対応に苦慮している事例に対し、県内外の自治体の事例や意見を今後の業務に活かすことができればと思い参加させていただきました。

1 日目の会議には関東・甲信越・静岡ブロックから 30 を超える自治体の担当者にお集まりいただきました。事前に頂いた事例研究及び意見交換の数が多く、2 つの分科会に分かれての開催となりました。大気・悪臭・水質・その他の分科会では、近年本市でも増加傾向にある薪ストーブの煙の苦情や食品製造工場の排水からの悪臭など幅広い内容で意見交換がなされました。騒音・振動の分科会では事業所や商業施設からの騒音に加え、家庭用エコキュートの運転音などについて意見交換がされました。私はこちらの分科会に参加しましたが、提案者の発表とそれに対する質問や他自治体による過去の対応事例の紹介、公害苦情相談アドバイザーの異なった視点からの

アプローチなど、活発に意見交換がなされ、時間はあっという間に過ぎていきました。また、会議終了後、アドバイザーに直接質問する場面もみられ、問題解決に対する出席者の熱意を強く感じました。

2日目の会議には県内市町村及び1日目の参加自治体にも引き続きお集まりいただき、本市で提案した事業者による薪ストーブからの煙臭等とともに、県内自治体から提案のあったプラスチック成形工場からの騒音問題、原因者不明の公害苦情の対応について意見交換が行われました。今回は2日目にも県外の自治体に参加していただいたことから、多くの参考事例を聞くことができ、経験豊富なアドバイザーからのアドバイスも頂き、今後の方向性を見出せたように思います。

今回の会議を開催するにあたり、事前に参加自治体から提案事例等を頂きました。その多くの事例は本市にも該当し、意見交換の中でも、実は本市も・・・という発言を多く聞きました。地域の特徴に由来する苦情相談ももちろんありますが、解決困難な苦情相談の多くは他自治体でも対応に苦慮しているとわかりました。そして、本会議で意見交換やアドバイスをもらうことで、提案した自治体だけでなく、同席した全ての自治体が解決への手がかりを持ち帰れたと思います。

最後になりますが、本会議を開催するに当たり公害等調整委員会事務局の方々をはじめ、公害苦情相談アドバイザー、参加いただいた各自治体担当者の皆様には大変お世話になりました、この場をお借りして御礼申し上げます。

岡山県岡山市環境局環境保全課主任

笠原 千晴

平成26年10月30日、31日の二日間、高松市にて「第39回公害苦情相談員等中国・四国ブロック会議」が開催されました。

1日目にはアドバイザーの方の講演がありました。長く騒音公害苦情に携わってこられた方で、その豊富な経験からの話をいただきました。その中で印象に残ったのは、騒音苦情では現地調査が重要であり、実際にその騒音の発生頻度・時間帯や現地でのうるささの程度や不快の程度などを職員自らが体感しておくことが必要と言われたことです。騒音苦情に限らず、苦情があった場合には、苦情者の話を聞くとともに、

実際に現地へ赴き、現地の状況をわたしたち職員自らが体感したり、事業場の状況について把握したりすることが的確な対処につながるのだと感じました。

その後、各自治体からの事例を基に事例研究・質疑応答が行われました。私は現在、水質係に所属しており、騒音や振動等の苦情については経験がありません。騒音等の事例については事前に騒音等を所管する係に相談し、現状、どのような対応をしているかなどの意見をもらいましたが、不安に思いながらの出席でした。また、以前この会議に出席した人から、会議では活発に意見が交わされることは聞いていましたが、実際に参加してみて、予定時間を超えるほどの意見交換の熱心さに驚くほどでした。提案事例は騒音、振動、粉じん、大気汚染、悪臭や水質汚濁と多岐にわたるものでした。大部分については実際に経験したことがないものでしたが、それぞれの問題点についての意見や提案、アドバイザーの方からの的確な助言など、参考になりました。

2日目は、高松市からの提案事例についての事例研究が行われ、前日と同様、有意義な意見交換となりました。

二日間にわたるディスカッションで、どの自治体でも同じような苦情が多く寄せられていることを実感しました。特に、特定施設を持たない事業場や小規模事業場など、法令等の規制の適用されない事業場への対応についてはどの自治体でも苦慮するところです。類似した問題について、このような会議の場で他の自治体での対応方法を聞いたり、意見を交わしたり、アドバイザーの方から貴重な意見や助言をもらうことで、新たな視点が開け、解決につながることもあると思います。その意味でも、この会議は貴重な場となっていると感じました。

平成 27 年度の中国・四国ブロック会議は岡山市で開催されます。岡山市は、桃太郎やきびだんご、はだか祭りで有名な西大寺会陽、そしてマスカットや白桃などのフルーツの産地として知られています。歴史的には、古代より吉備文化の発祥地として栄え、市西部には造山古墳をはじめ今も多くの史跡が残っています。また、中心部には、岡山城や日本三名園のひとつである岡山後楽園があり、豊かな自然と文化が調和した都市空間を形成しています。機会がありましたら散策などもしただけたらと思います。次回の会議も例年に劣らず有意義なものとなるよう、開催地として努めたいと思いますので、ぜひ岡山市へお越しくください。